

験を対象にして解析し、乱流境界層内における鉛直方向の拡散について以下のことが分かった。

(1) 排出源が有る場合の乱流境界層内における鉛直方向の濃度分布は、平板上や平坦な地形上はもちろん、やや複雑な地形上においても近似的には正規型の濃度式が適用できる。

(2) 鉛直方向の拡散パラメータ σ_z は、「相当排出源高度 h のまわりの2次のモーメントの平方根」にほぼ等しい。すなわち、近似的な解釈としては、 σ_z が h のまわりの濃度分布の標準偏差と考えることができる。

(3) 相当排出源高度 h の流れ方向の変化は、平板上や平坦な地形上では大ききと変化は見られなかった。しかし、複雑な地形上では、地形の影響により大きき変化して行くことが分かった。実用の場合、種々の地形の形状における h の高さを如何にして予測するかは今後研究する必要がある。

本報告の風洞実験は、科学技術庁国立機関原子力試験研究費「大気中に放出された放射性物質拡散の即時予測システム開発に関する研究（昭和56～60年度）」により行われたものである。

謝 辞

平素励ましを頂いています、気象研究所 花房龍男室

長、大阪府立大学 伊藤昭三教授 および 元お茶の水女子大学 根本茂教授に感謝の意を表します。また、大型気象風洞の運転をして頂いた梅沢俊夫氏に記して謝意を表します。

文 献

加藤真規子, 1981: 温度成層のある乱流境界層内における乱流拡散(風洞実験), *Pap. Met. Geophys.*, **32**, 323-339.

加藤真規子, 1985: 乱流境界層中の乱れの減衰とその拡散への影響(風洞実験), *天気*, **32**, 511-522.

加藤真規子, 1986: 正規型の濃度式における鉛直方向拡散パラメータ σ_z の求め方について, *Pap. Met. Geophys.*, **37**, 37-44.

坂上治郎, 1978: 拡散パラメータの意義および Turner 図の意義とその使い方についての注意, *大気汚染学会誌*, **13**, 33-38.

Sakagami, J. 1965: Heat diffusion close to a solid wall in turbulent boundary layer, *Nat. Sci. Rep., Ochanomizu Univ.*, **16**, 21-36.

Sakagami, J. and M. Kato, 1968: Effect of complicated topography on diffusion—wind tunnel experiments—, *Nat. Sci. Rep., Ochanomizu Univ.*, **19**, 1-21.

「短期・中期数値予報の国際シンポジウム」のお知らせ

標記シンポジウムが来る8月4日(月)～8日(金)、東京の気象庁講堂で、開催されます。現在のところ、論文数は招待を含め約170篇、うち約90篇が口頭発表され、残りがポスターセッションで発表される予定です。日程は次の通りです。

8月4日

セッションⅠ: 客観解析・データ同化・観測システム実験

セッションⅡ: 大気のパラメータとイニシャルセッション

8月5日

セッションⅢ: 物理過程のパラメータセッション

セッションⅣ: 数値計算スキーム

8月6日

1986年6月

セッションⅤ: 全球予報モデル

セッションⅥ: 限定領域モデル

8月7日

セッションⅦ: メソスケール現象の解析と予報

セッションⅧ: 熱帯低気圧予報を含む熱帯域での数値予報

8月8日

セッションⅨ: 地形の効果と取扱

セッションⅩ: 予報誤差の評価と解釈, 予報可能性

セッションⅪ: 将来の展望 (パネル・ディスカッション)

同シンポジウムについてのお問合せは、気象庁予報部数値予報課、または東大理学部地球物理・松野まで。